

CL5800

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CL5800 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2012 年 11 月 19 日

ファームウェア Ver. 1.3.122 版

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆使用上の誤りによるもの
- ◆製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆日本国外で使用されたもの
- ◆日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL（生産終了）が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は1年間です。

【補足】

- ・本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対する保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC.....	3
RoHS.....	3
SJ/T 11364-2006	3
安全にお使い頂くために.....	4
全般	4
ラックマウント	6
同梱品.....	7
基本パッケージ.....	7
本マニュアルについて.....	8
マニュアル表記について.....	9
第1章 はじめに.....	10
概要	10
特長	11
システム要件.....	12
LCD コンソール	12
セカンドコンソール.....	12
ケーブル	12
OS.....	13
概要.....	14
フロントパネル	14
キーボードパネル.....	15
LCD パネル	16
リアパネル.....	17
第2章 セットアップ	18
セットアップの前に.....	18
標準ラックマウントキット.....	19

セットアップ方法.....	21
接続図.....	21
第3章 基本操作.....	22
コンソールを開く.....	22
別々に開く.....	22
同時に開く.....	24
使用上の注意.....	25
コンソールを閉じる.....	26
ホットプラグ.....	28
電源 OFF と再起動.....	28
ポート ID の割り当てとポート選択.....	28
LCD の OSD 設定.....	29
LCD ボタン.....	29
LCD 調整値の設定.....	30
ホットキー.....	31
第4章 ファームウェアアップグレード.....	32
ファームウェアアップグレードユーティリティ.....	32
事前準備.....	32
ファームウェアアップグレードモード.....	33
アップグレードの実行.....	34
ファームウェアアップグレードリカバリー.....	38
ファームウェアアップグレードモードの終了.....	38
付録.....	39
製品仕様.....	39
イージーセットアップラックマウントキット.....	42
SPHD コネクターについて.....	45
Sun キーボード.....	46
トラブルシューティング.....	47

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。
- ◆ **注意:**ラックにマウントされた LCD KVM ドロワーを棚や作業スペースとして使用しないでください。



同梱品

基本パッケージ

CL5800 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CL5800 コンソールドロワー(標準ラックマウントキット取付済み) ×1
- ◆ 2L-5302UP(1.8m)ケーブル ×1
- ◆ 電源ケーブル ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ クイックスタートガイド ×1
- ◆ イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング) ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CL5800 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章 はじめに:** CL5800 を紹介します。特長および機能の概要、また製品の各部名称について説明します。
- 第2章 セットアップ:** 基本的なハードウェアセットアップの手順及び操作方法について説明します。
- 第3章 基本操作:** CL5800 の機能概要および操作方法について説明します。
- 第4章 ファームウェアアップグレードユーティリティ:** お使いの CL5800 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

概要

CL5800 は、LCD パネルとキーボード・タッチパッドの機能を統合したコンソールドrawerです。本製品は 1U サイズでラックにマウントすることができ、AC 電源を使用して動作します。

CL5800 は、互換した KVM スイッチのコンソールとしてお使いいただけます。これは、本製品に対応した KVM スイッチを既にお持ちの場合は、KVM スイッチの機能を搭載した drawer を新たに購入しなくても、省スペースで効率的なコンソールが追加できるというメリットがあることを意味します。

CL5800 の LCD モニター部分とキーボード/タッチパッド部分は別々にスライドします。データセンターのスペースを最大限に利用するために、キーボード/タッチパッド部分を使用しないときにはこれをラックに収納したまま、薄型の LCD モニター部分をラックに立てかけてコンピューターの画面を簡単に監視することができます。

更に便利な特長として、リアパネルにはモニター、PS/2・USB 対応のキーボード・マウスが接続できるセカンドコンソールポートを搭載しています。

セットアップに必要な作業は、付属の KVM ケーブルを使って製品本体の KVM ポートを KVM スイッチのコンソールポートに接続するだけです。簡単で時間もかかりません。

本製品はファームウェアアップグレードに対応しております。利用可能なファームウェアアップグレードファイルを弊社サイトからダウンロードし、このユーティリティを使って迅速かつ手軽にアップグレードを実行することで、お使いの製品でも最新の機能をご利用いただけます。

特長

- ◆ 19 インチ LCD 一体型 KVM コンソールドロワー - 1U サイズで快適なコンソール操作環境を提供
- ◆ 簡単に取り付けが可能なイーजीラックマウントキット同梱 (ショート/ロング選択)
- ◆ セカンドコンソールポート搭載 (PS/2、USB 両対応)
- ◆ デュアルインターフェース - コンピューターおよびコンソールは、PS/2、USB の両インターフェースに対応
- ◆ フロントパネルには USB マウスポートを搭載 - ホットプラグ対応。USB ハブポートとしても使用可能
- ◆ 内部電源搭載
- ◆ 解像度 - 最大 1,280×1,024@75Hz。DDC、DDC2、DDC2B 準拠
- ◆ JIS 準拠 105 キーボード搭載
- ◆ デュアルスライド構造 - LCD パネル、キーボード/タッチパッドは個別にスライドさせることが可能
- ◆ ATEN 製 KVM スイッチと互換
- ◆ レールの長さはラックの奥行きに合うように調節可能
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ Microsoft Intellimouse™他、スクロールホイール付きマウスに対応
- ◆ コンソールロック機能 - 未使用時にはコンソールドロワーを内側にロック
- ◆ DDC エミュレーション - 各コンピューターのビデオ設定はモニターに最適な出力ができるように自動調整

システム要件

LCD コンソール

- ◆ 本製品は大半の ATEN 製 KVM スイッチに接続してお使いいただけます。お使いの KVM スイッチが本製品に対応しているかどうかご不明な場合は、販売店までお問い合わせください。
- ◆ 本製品の最大解像度は 1,280×1,024@75Hz です。製品に接続して使用するコンピューターの解像度がこの LCD モニターの最大解像度を超えないように設定してください。

セカンドコンソール

- ◆ 本製品に接続して使用するコンピューターの解像度に適した VGA・SVGA・マルチシンクモニター
- ◆ USB または PS/2 に対応したキーボードおよびマウス

ケーブル

信号の整合性を最適化させ、レイアウトを簡素化するために、p.41 に示す高品質の専用ケーブルの使用を推奨します。お買い求めの際には、販売店までお問い合わせください。

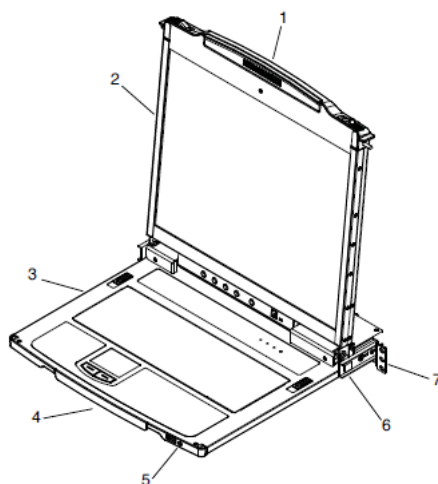
OS

本製品に対応した OS は下表のとおりです。

OS		バージョン
Windows		NT 以降
Linux	Red Hat	7.1 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
DOS		6.2 以降

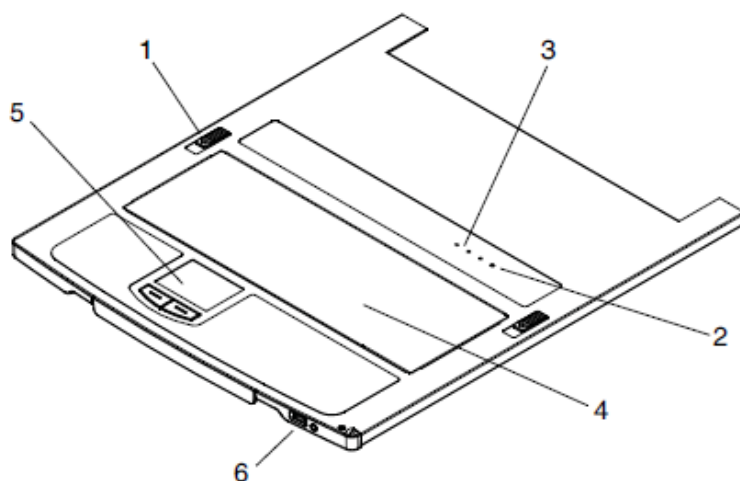
概要

フロントパネル



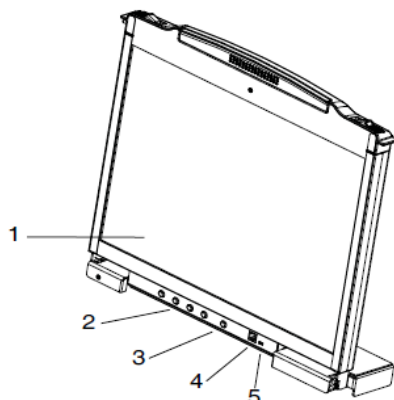
No.	名称	説明
1	上部ハンドル	LCD モジュールを引き出す場合は、このハンドルを引き出してください。また、元に戻す場合は、このハンドルを押してください。コンソールのスライドに関する詳細は、p.22「コンソールを開く」をご参照ください。
2	LCD パネル	p.16「LCD パネル」をご参照ください。
3	キーボードパネル	p.15「キーボードパネル」をご参照ください。
4	下部ハンドル	キーボード部分を引き出す場合はこの部分を引っ張ってください。コンソールのスライドに関する詳細は、p.22「コンソールを開く」をご参照ください。
5	電源 LED	点灯時(青色)には、ユニットが給電されていることを表します。
6	LCD リリースキャッチ	両側にあるこれらのキャッチを解放することで、LCD パネルを手前に引き出すことができます。
7	ラックマウントタブ	ラックマウントタブはユニットの四隅に位置します。詳細については p.19「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

キーボードパネル



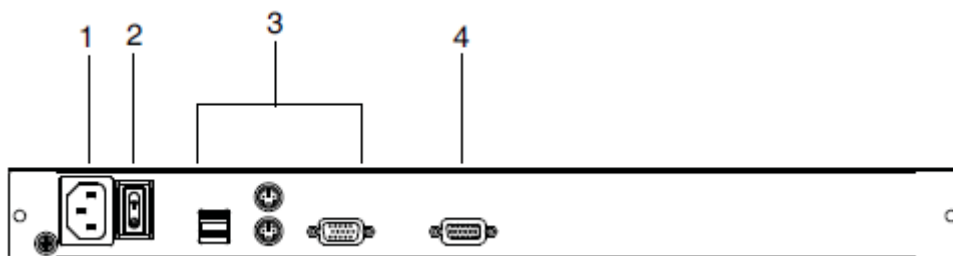
No.	名称	説明
1	キーボードリリースキャッチ	キーボード・タッチパッド部分を引き出す際には、これらのキャッチ(左右各一カ所)のロックを解除します。
2	リセットスイッチ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ このボタンを押しながら製品に電源を入れると、CL5800 は工場出荷時のファームウェアバージョンに戻ります。ファームウェアアップグレードに失敗した場合には、この方法でリカバリーを行ってください。 ◆ このボタンを 3 秒以上長押しすると、システムリセットを実行します。 <p>注意:このボタンはピンホール型ボタンですので、クリップの先やボールペン等、先が細く尖ったものを使って押してください。</p>
3	ロック LED	Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各キーの状態を表す LED です。
4	キーボード	標準的な 105 キー キーボードです。
5	タッチパッド	標準的なタッチパッドです。
6	USB ポート	この USB ポートは、外付けマウスを使用するユーザー向けに搭載されたものです(p.31「ホットキー」参照)。また、このポートには USB デバイスを接続して使用することも可能です。

LCD パネル



No.	名称	説明
1	LCD ディスプレイ	LCD モニターを使用する際には、LCD パネル部分を引き出して起こしてください。LCD モニターの引き出し方法に関する詳細は、p.22「コンソールを開く」をご参照ください。
2	LCD OSD コントロール	LCD ディスプレイの表示位置や画質設定を調整するボタンです。詳細については p.29「LCD の OSD 設定」をご参照ください。
3	LCD 電源ボタン	LCD モニターの電源を ON または OFF にする場合は、このボタンを押してください。LCD モニターが OFF の場合、このボタンは点灯し、LCD モニターだけが電源 OFF であることを表します。(製品本体自身の電源には影響を与えません。)
4	ファームウェアアップグレードポート	ファームウェアアップグレードデータを管理者のコンピューターから CL5800 に転送するファームウェアアップグレードケーブルは、この RJ-11 コネクタに接続します。
5	ファームウェアアップグレードスイッチ	通常操作時やファームウェアアップグレードの実行中には、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせます。また、ファームウェアアップグレードの操作が正常に終了しなかった場合には、このスイッチを使ってファームウェアアップグレードのリカバリーを行います。(詳細は p.32「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を参照)

リアパネル



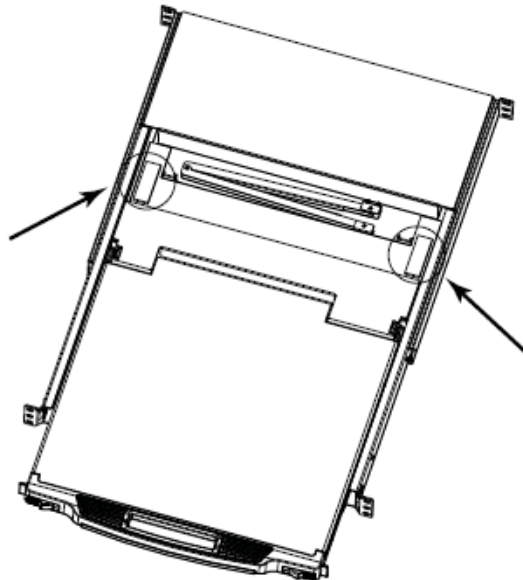
No.	名称	説明
1	電源ソケット	標準的な 3 極ソケットです。AC 電源に接続された電源コードをこの部分に接続します。
2	電源スイッチ	標準的なロックスイッチで、本体電源の ON/OFF 操作を行います。
3	セカンドコンソールポート	柔軟かつ便利にお使い頂けるように、CL5800 では独立したセカンド KVM コンソールに対応しています。セカンドコンソールとして使用するキーボード、モニター、マウスはこの部分に接続してください。
4	KVM ポートセクション	コンピューターまたは KVM スイッチに接続するケーブルをこの部分につなぎます。 注意: この SPHD コネクターの形状は、本製品向けに設計された KVM ケーブルだけを接続できるように、特別に変更されたものです (p.41「ケーブル」参照)。これらのポートをコンピューターに接続する際には、一般的な 15 ピン VGA コネクターが付属したケーブルを使用しないでください。

第2章 セットアップ

セットアップの前に

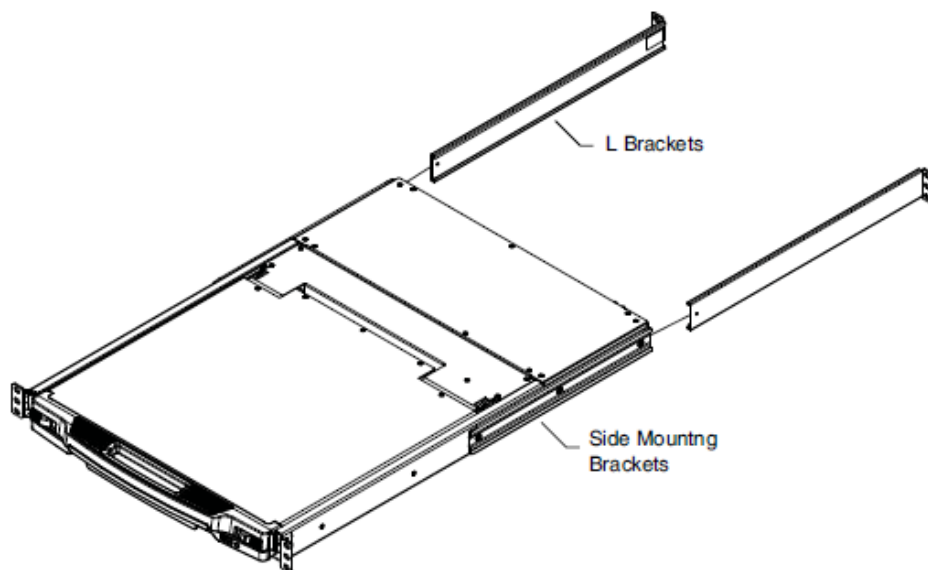


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.4 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源が OFF になっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピューターの電源ケーブルも抜いてください。
3. 運搬時に製品を保護するために、製品本体には梱包材が挿し込まれています。この梱包材が見える部分まで LCD パネル部分を引き出してください (p.22「コンソールを開く」参照)。製品をセットアップする前には、下図に示す梱包材を取り外してください。



標準ラックマウントキット

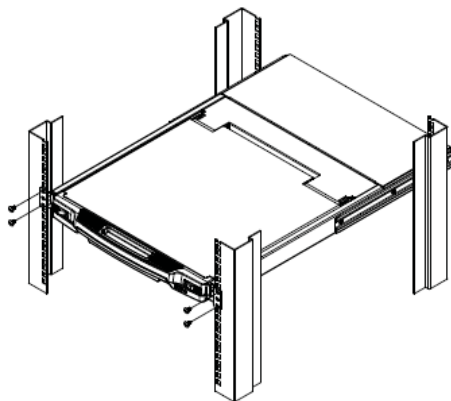
CL5800 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されます。標準ラックマウントキットを使用してマウントが可能なラック支柱奥行きは、42~77cmです。



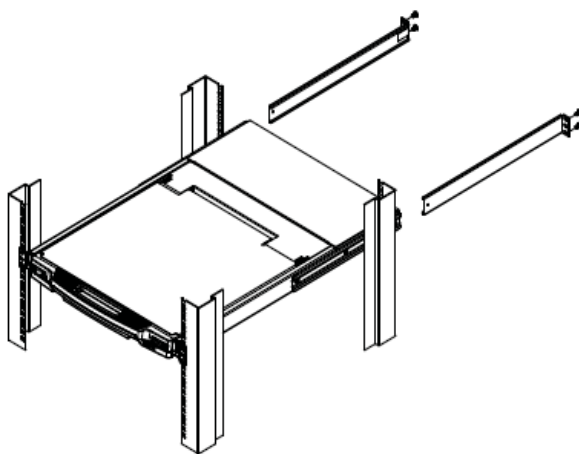
-
- 注意:**
1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者と、複数で行ってください。
 2. ラックへの取付に使用するネジおよびケージナットは、製品に同梱されていません。お手数ですが、ラックに対応したネジとケージナットをご用意ください。
 3. オプションの**イージーセットアップラックマウントキット**が製品に同梱されています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.42 をご参照ください。
-

CL5800 をラックマウントする場合は、下記の手順に従って作業を行ってください。

1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者とで、複数で行ってください。最初にフロント側タブのネジ止めを行います。



2. 製品を取付位置で保持したまま、他の作業者は標準レールキットを製品リア側から差し込み、取付長を調整して、ネジ止めしてください。



3. 最後に全てのネジがしっかりと固定されていることを確認してください。

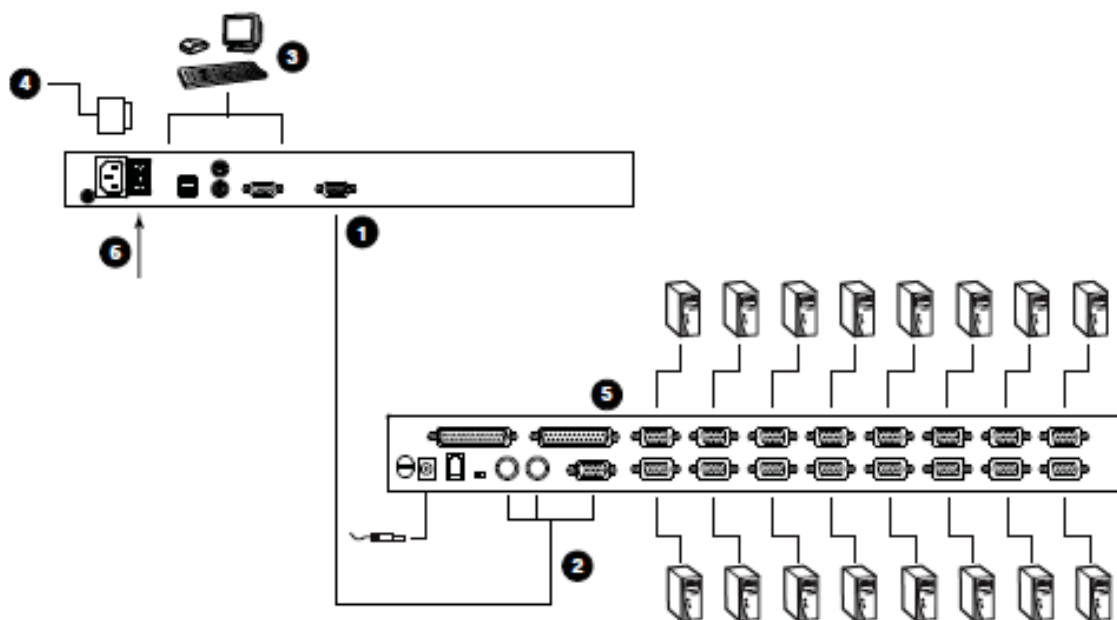
注意: 製品両側には適切な通気を確保するために少なくとも 5cm 程度、また、製品リア側にはケーブル取り回しのスペースを確保するために少なくとも 13cm 程度の空間をそれぞれ確保した状態で設置してください。

セットアップ方法

接続図を参考にしながら、下記の手順に従って作業を行ってください。

1. KVM ケーブル(製品同梱または別途購入したもの。p.12「セカンドコンソール」参照)の SPHD コネクターを製品の KVM ポートに接続してください。
2. 手順 1 で使用した KVM ケーブルのキーボード、モニター、マウスの各コネクターを、KVM スイッチのコンソール部分にある対応ポートにそれぞれ接続してください。
3. セカンドコンソールをセットアップする場合は、お使いのキーボード、モニター、マウスを、CL5800 のセカンドコンソール部分にある対応ポートにそれぞれ接続してください。
4. 製品同梱の電源ケーブルを CL5800 に接続し、この電源ケーブルを電源に接続してください。
5. 製品に接続された KVM スイッチの電源を ON にしてください。
6. CL5800 の電源を ON にしてください。

接続図



第3章 基本操作

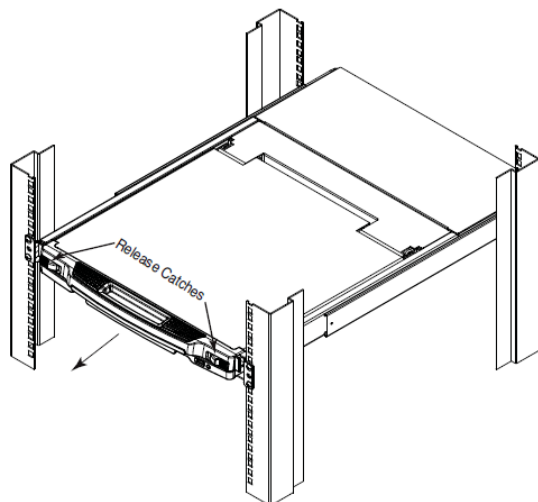
コンソールを開く

CL5800 のコンソールは、上部パネル側の LCD パネル部分と、この下部に位置するキーボード/タッチパッド部分から構成されます。

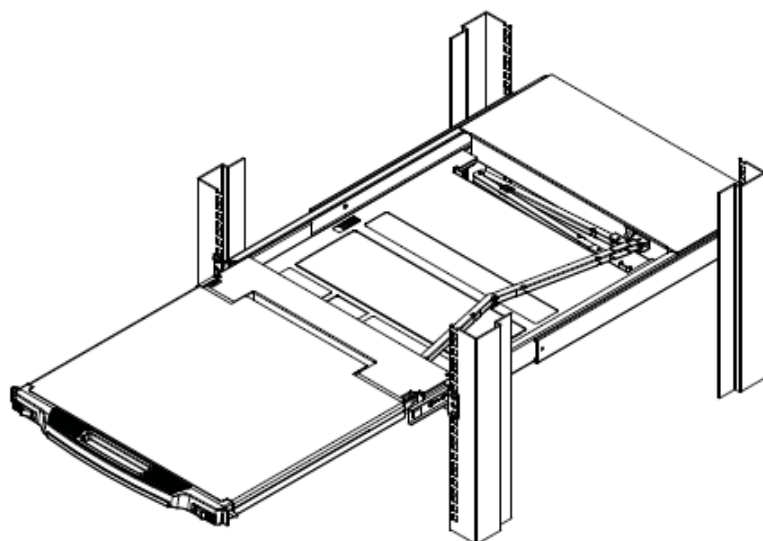
これらのパネルは、同時スライドと個別スライドの両方が可能です。この構造によって、キーボード/タッチパッド部を使用しない場合は、邪魔にならないようにラックに格納し、LCD パネル部分だけでモニタリングを継続することができます。

別々に開く

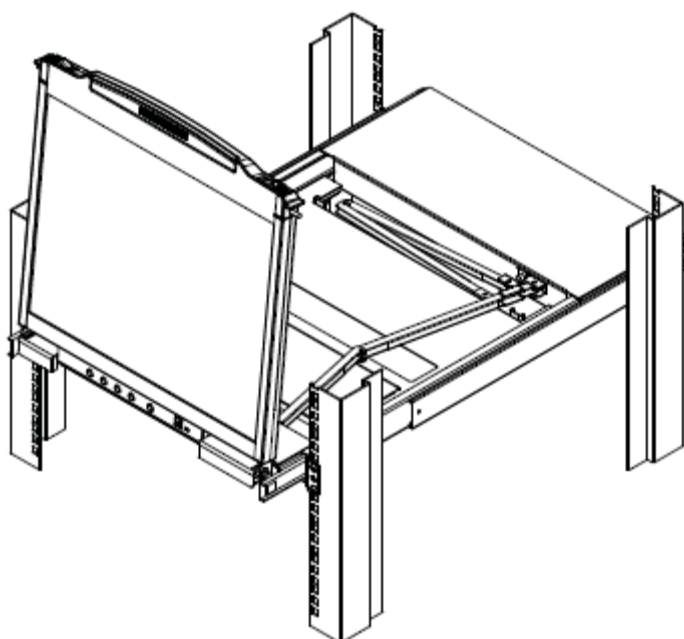
1. リリースキャッチを引いてコンソールのロックを解除し、上部パネルを数センチ手前に引き出してください。コンソールのロックが解除されると、キャッチから手を離すことができます。



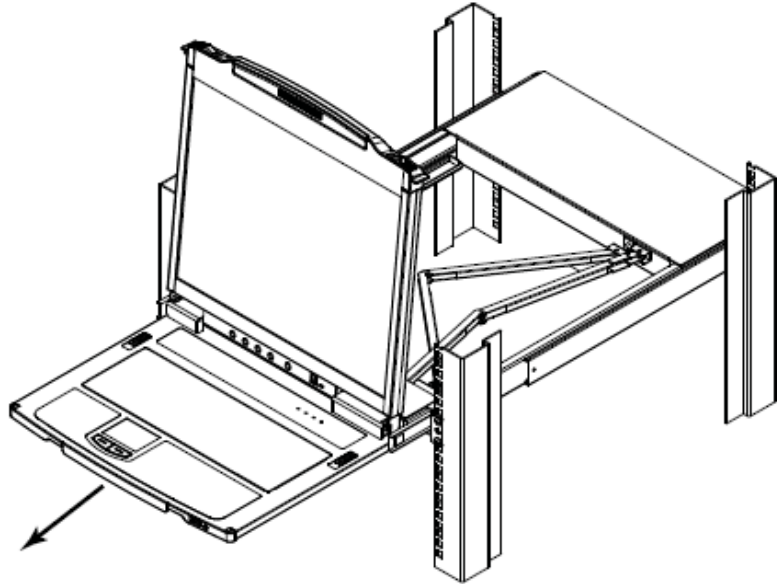
2. 上部パネルが「カチッ」と音がするまで引き出してください。



3. LCD ディスプレイが見えるように上部パネルを起こしてください。



4. 下部パネルも「カチッ」と音がするまで引き出してください。



同時に開く

「別々に開く」のセクションにおける図を参考にしながら、下記の手順に従って操作してください。

1. リリースキャッチを引っ張って、キーボード部分から「カチッ」と音がするまで上下パネルを引き出してください。

注意: コンソールが解除されると、キャッチから手を離すことができます。

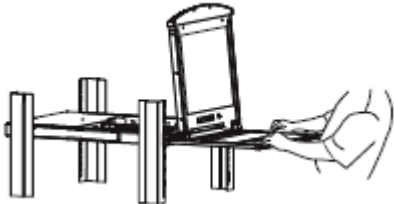
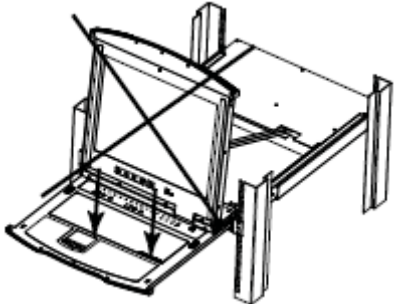
2. 上部パネルの残りを「カチッ」と音がするまで引き出してください。
3. LCD ディスプレイが見えるように上部パネルを起こしてください。

注意: 次のページにある、キーボードパネルへの過重物積載に関する注意書きをご確認ください。

使用上の注意

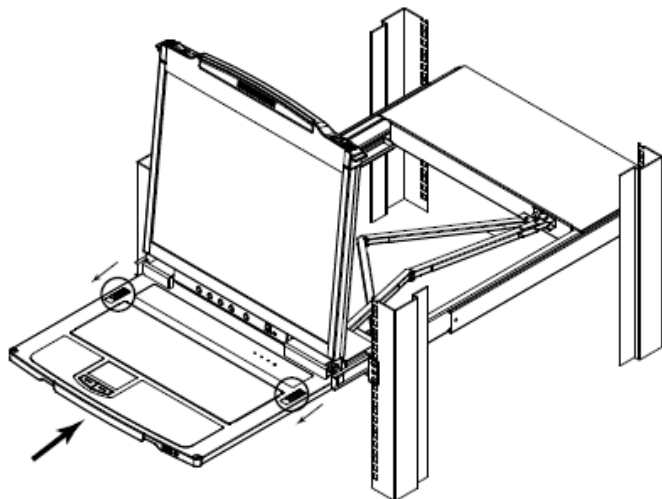


キーボードパネルの最大耐荷重は 30kg です。下記の注意事項に従わずに取り扱った場合、キーボードパネルに損傷を与えるおそれがありますので、ご注意ください。

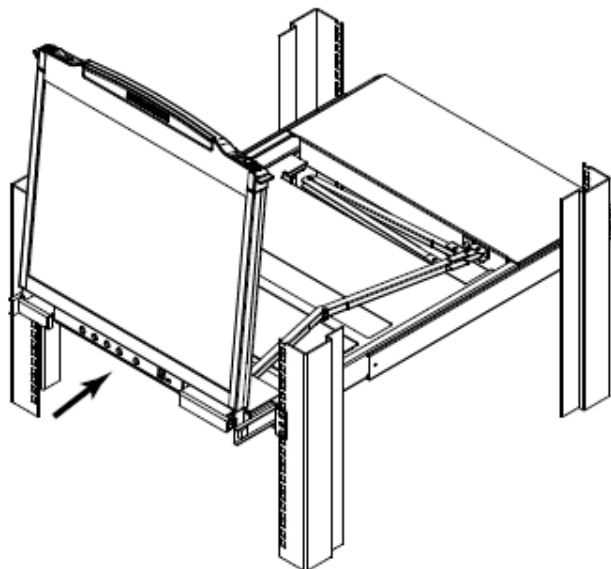
	<p>正しい使い方</p> <p>キーボードパネルに手や腕を軽く載せて作業してください。</p>
	<p>誤った使い方</p> <ul style="list-style-type: none">◆ キーボードパネルに体重をかけないでください。◆ キーボードパネルに重い物を載せないようにしてください。

コンソールを閉じる

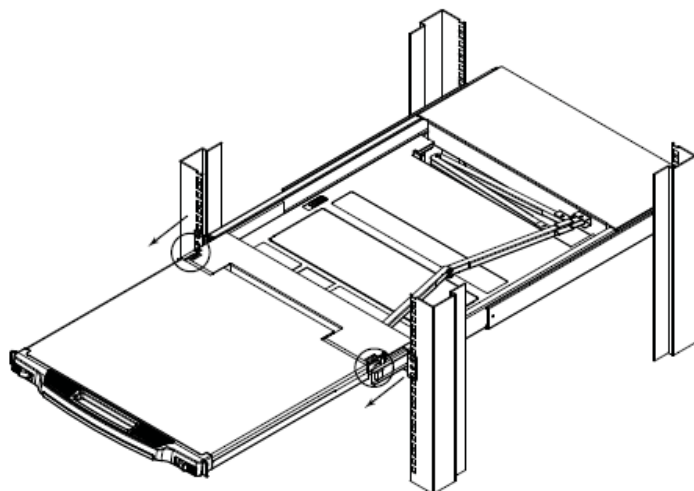
1. キーボードパネルの左右にあるリリースキャッチを手前にスライドさせてロックを解除し、ラック側にスライドさせてください。



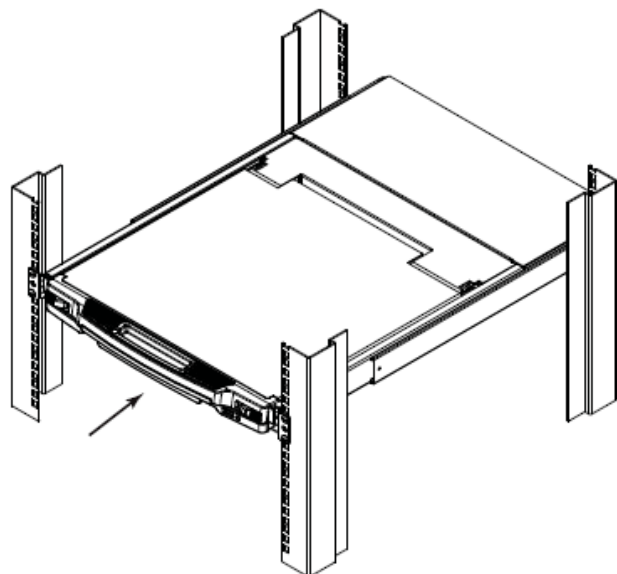
2. キャッチから手を離してください。フロントハンドルを使って、キーボードパネルをラック側にスライドさせてください。



3. LCD パネルを手前に倒したら、リアキャッチを引っ張って、LCD パネルのロックを解除してください。



4. フロントハンドルを使って、パネルをラック側に押し込んでください。



ホットプラグ

CL5800 はホットプラグ対応製品です。本体をシャットダウンすることなく、ケーブルの抜き差しだけでキーボードやマウス等の取り付け・取り外しを行うことが可能です。

電源 OFF と再起動

ファームウェアのアップグレード等の理由で製品の電源を切る必要がある場合は、リアパネルにある電源スイッチで製品の電源を OFF にしてください。CL5800 を再起動する場合は、この電源スイッチを ON にしなおしてください。



ポート ID の割り当てとポート選択

ポート ID の割り当て及びポート選択は、CL5800 に接続されている KVM スイッチの仕様に基づいて行われます。詳細については、各製品のユーザーマニュアルをご参照ください。

LCD の OSD 設定

LCD ボタン

LCD の OSD を使うと、ディスプレイの設定を行うことができます。設定には下表にある4つのボタンを使用します。

ボタン名称	機能
MENU	<ul style="list-style-type: none">◆ LCD の OSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すと、メニュー機能を起動し、メインメニューを呼び出します。◆ LCD の OSD メニュー機能を呼び出してから、ナビゲーションボタンを使って LCD の OSD メニュー項目の選択をしている時にこのボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
	このボタンで右または上にあるメニューを選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
	このボタンで左または下にあるメニューを選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	<ul style="list-style-type: none">◆ LCD の OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと、OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。自動調整機能は、OSD が最適と判断した値になるように LCD パネルの全機能を自動的に設定します。◆ LCD の OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと、LCD の OSD メニュー機能を終了します。

LCD 調整値の設定

下記の表は OSD メニューで設定可能な LCD の調整項目に関する説明です。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	ディスプレイ上にピクセルジッターまたは横線が見られる場合は、お使いの LCD のフェーズの設定が適切でない可能性があります。このような場合には、この値を調節して問題を解消してください。
Clock (クロック)	ディスプレイ上に縦縞のようなものが見られる場合、お使いの LCD パネルのクロックの設定が適切でない可能性があります。このような場合には、この値を調節してください。
H-Position (水平位置)	LCD 内の表示部分の横方向の位置を設定します。 (表示画面を左右の方向に動かして調整します)
V-Position (垂直位置)	LCD 内の表示部分の縦方向の位置を設定します。 (表示画面を上下の方向に動かして調整します)
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスなどを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上に表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	すべてのメニューにおける設定値を工場出荷時のデフォルト値にリセットします。 注意: 「Language」の設定は工場出荷時のデフォルト値には戻りませんが、この項目に設定された値が保持されます。

ホットキー

CL5800 におけるコンソール選択は、ホットキーの操作によって行われます。各ホットキーの詳細は下表のとおりです。

ホットキー	操作
[Ctrl][Alt][Shift][P][C][Enter]	ノーマルモード(PC 等)を選択します。
[Ctrl][Alt][Shift][S][U] [N] [Enter]	Sun を選択します。
[Ctrl][Alt][Shift][u][p] [g] [r][a] [d][e] [Enter]	ファームウェアアップグレードモードを有効にします。 注意: このホットキーは、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチが「NORMAL」の位置にあるときのみ機能します (p.33 参照)。
[Ctrl][Alt][Shift][L][Enter]	ローカル(LCD)コンソールを有効にし、リモート(セカンド)コンソールを無効にします。
[Ctrl][Alt][Shift][R][Enter]	リモート(セカンド)コンソールを有効にし、ローカル(LCD)コンソールを無効にします。
[Ctrl][Alt][Shift][L][R][Enter] または [Ctrl][Alt][Shift][R][L][Enter]	両方のコンソールを有効にします(デフォルト)。
[Ctrl][Alt][Shift][U][M][Enter]	フロントの USB ポートをマウスモードに設定します(マウス機能はすぐに USB マウスモードに切り替わります)。
[Ctrl][Alt][Shift][U][P][Enter]	フロントの USB ポートをデバイスモードに設定します。

- 注意:**
- 一度に押すキーは 1 つだけです。例えば、[Ctrl]キーを押したら、続けて[Alt]キー、[Shift]キーといった順に押してください。
 - コンソールの選択状態は保存されません。CL5800 の電源が OFF になると、再び電源が ON になった時には、デフォルトである両方のコンソールが有効になるという設定に戻ります。
 - CL5800 に接続されている KVM スイッチが、[Ctrl]キー、[Alt]キー、[Shift]キーを組み合わせてホットキーモードを起動している場合、このホットキーにはアクセスできません。というのも、CL5800 側でコンソール選択のホットキーとして認識されてしまうからです。

第4章

ファームウェアアップグレード

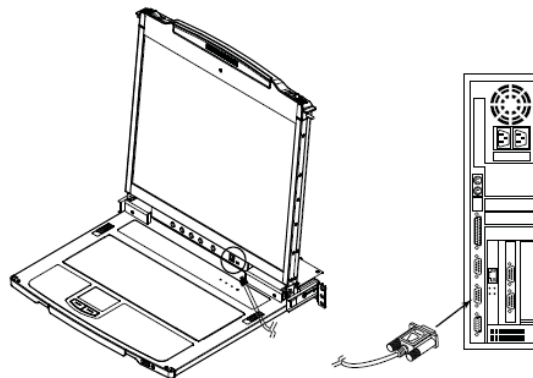
ファームウェアアップグレードユーティリティ

製品のファームウェアは新しいバージョンがリリースされると、弊社 Web サイトに公開されます。Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)は、CL5800 のファームウェアをスムーズかつ自動的にアップグレードできるツールです。定期的に弊社ダウンロードサイトにアクセスしていただき、ファームウェアのアップグレードを行うことで、最新の機能をご利用いただけます。

事前準備

ファームウェアアップグレードを始める前に、下記の手順に従って準備を行ってください。

1. CL5800 に接続されていないコンピューターから弊社ダウンロードサイトにアクセスし、製品型番リストから CL5800 を選択してください。利用可能なファームウェアのバージョンが一覧表示されます。
2. 適用対象となるアップグレードパッケージ(通常は最新版)を選択し、そのコンピューターにダウンロードしてください。
3. 製品に同梱されているファームウェアアップグレードケーブルでお使いのコンピューターの COM ポートと製品のファームウェアアップグレードポートを接続してください。



ファームウェアアップグレードモード

CL5800 のファームウェアアップグレードモードは、ホットキー(p.31「ホットキー」参照)を入力するか、または CL5800 をファームウェアアップグレードモードにすること(p.38「ファームウェアアップグレードリカバリー」参照)でアクセスが可能です。

注意: ホットキーを使ってファームウェアアップグレードモードを有効にするには、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ(p.16 参照)を「**NORMAL**」の位置に合わせる必要があります。

1. リアパネルにある電源スイッチを使って CL5800 の電源を OFF にしてください。
2. ファームウェアスイッチを「RECOVER」の位置にスライドさせてください(p.16 参照)。
3. リアパネルにある電源スイッチを使って CL5800 の電源を ON にしてください。

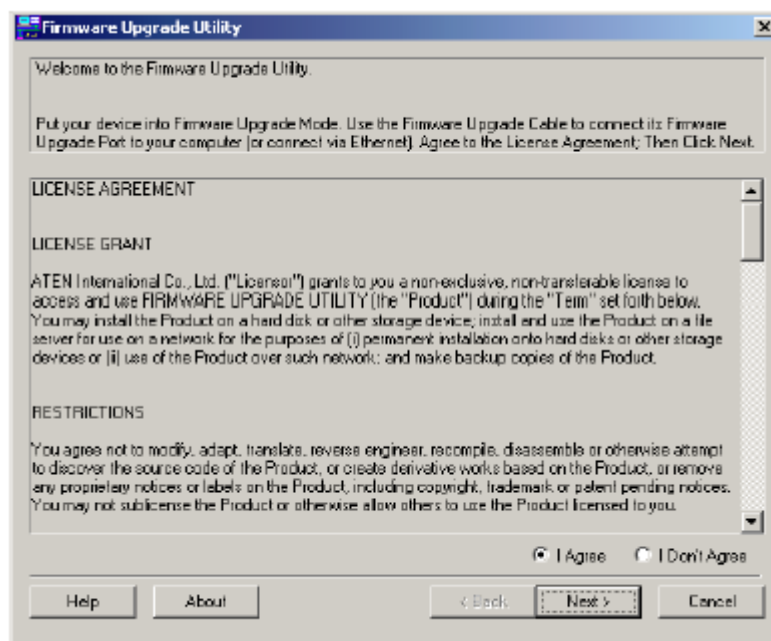
CL5800 がファームウェアアップグレードモードの場合、Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各 LED ランプは連続して点滅します。

ファームウェアアップグレードモードを終了する場合は、p.38「ファームウェアアップグレードモードの終了」をご参照ください。

アップグレードの実行

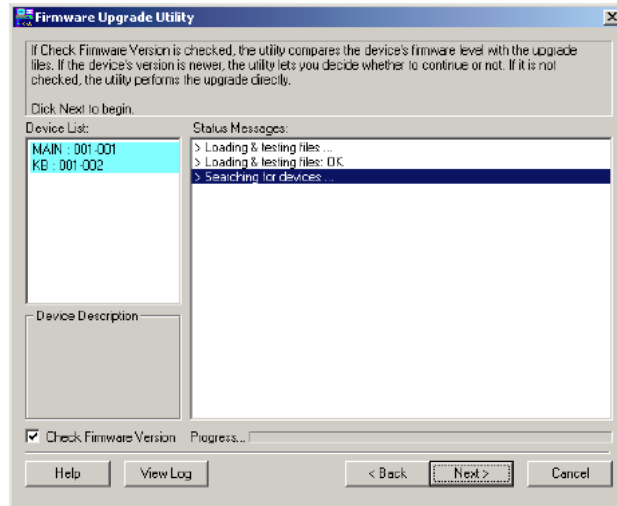
アップグレードの開始

1. 弊社ダウンロードサイトからダウンロードしたパッケージをダブルクリックするか、そのファイルのフルパスをコマンドラインに入力して実行してください。以下のようなファームウェアアップグレードユーティリティの初期画面が表示されます。



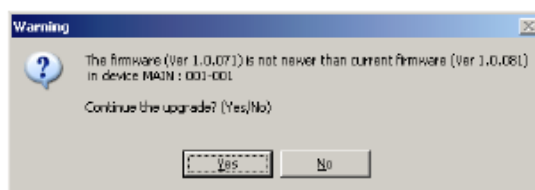
2. ダイアログ内に表示されている使用許諾契約の内容をご確認いただき、「I Agree」のラジオボタンを選択してその内容に同意してください。

3. 「Next」ボタンをクリックしてください。このボタンを押すと、ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。



ユーティリティはお使いのシステムを検査し、現在のファームウェアアップグレードパッケージでアップグレードが可能なデバイスの一覧が表示されます。

4. アップグレードを実行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。
 - ◆ 「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れると、ユーティリティは現在デバイスにインストールされているファームウェアのバージョンと、これから適用しようとしているファームウェアのバージョンの比較を行います。このとき、デバイスに既にインストールされているバージョンの方が新しい場合、以下のようなダイアログが表示され、アップグレード作業を続けるかどうかの選択を促されます。

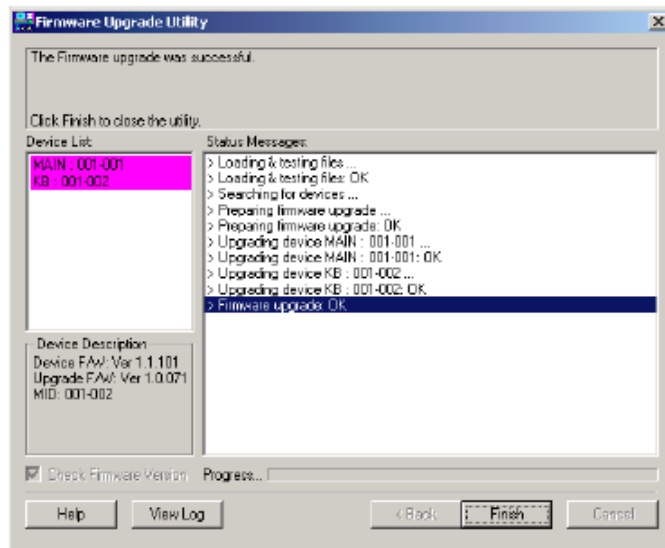


この項目にチェックが入っていないと、ユーティリティはファームウェアの比較を行わずにアップグレード処理を続行します。

- ◆ アップグレードの進捗状況は、画面に表示されるステータスメッセージとプログレスバーで確認することができます。

アップグレード成功

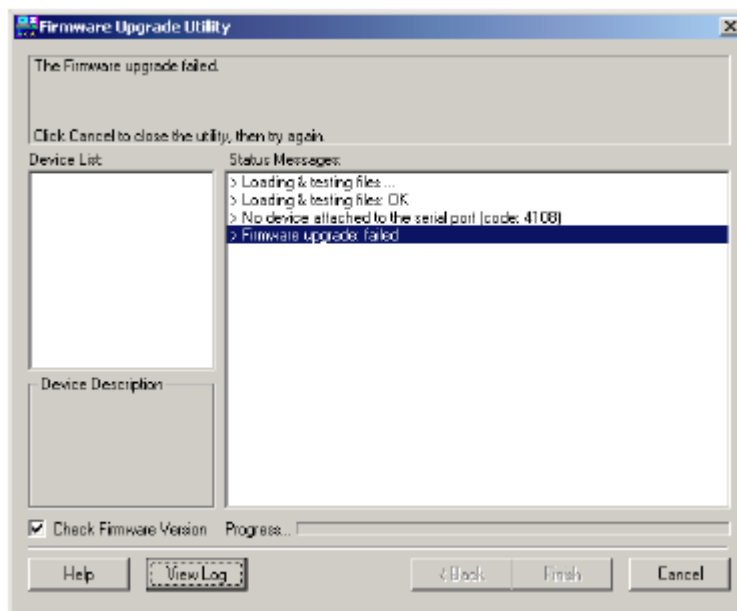
アップグレードに成功すると、以下のような画面が表示されます。



ファームウェアアップグレードユーティリティを終了する場合は「Finish」ボタンをクリックしてください。

アップグレード失敗

アップグレードに失敗すると、下図のような「Upgrade Failed」画面が表示されます。



ファームウェアアップグレードユーティリティを終了する場合は、「**Cancel**」ボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードのリカバリーについては、次のセクションをご参照ください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

以下のような場合、ファームウェアアップグレードのリカバリー作業が必要となります。

- ◆ ファームウェアが何らかの理由で破損し、操作できなくなった。
- ◆ ファームウェアのアップグレード作業がユーザーによって途中で中止された。
- ◆ ファームウェアアップグレードが途中で失敗した。

ファームウェアアップグレードのリカバリーを行う場合は、以下の手順で作業してください。

1. 製品の電源を OFF にしてください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを、製品のファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. 製品のファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**RECOVER**」の位置にスライドさせてください。
4. 製品に電源を入れなおし、アップグレード作業を最初からやり直してください。
5. ファームウェアアップグレードが成功したら、製品の電源を一旦切り、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**NORMAL**」の位置にスライドさせてください。
6. 製品に電源を入れなおしてください。

ファームウェアアップグレードモードの終了

ファームウェアアップグレードモードを終了する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ (p.16 参照) を「**NORMAL**」の位置にスライドさせてください。
2. p.28「電源 OFF と再起動」の手順に従って、CL5800 の電源を OFF にし、再起動してください。

付録

製品仕様

機能		CL5800
コンピューター接続数	ダイレクト接続	1
	最大	(接続する KVM スイッチに依存)
セカンドコンソール		1
コンピューター側対応 インターフェース	キーボード	PS/2、USB
	マウス	
セカンドコンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB
	マウス	
ポート選択方法		(接続する KVM スイッチに依存)
コンソール選択方法		ホットキー
コンピューター側コネ クター	キーボード	SPHD メス(イエロー)×1
	マウス	
	モニター	
セカンドコンソール側 コネクター	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1
	モニター	D-sub15 ピンメス×1
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	電源	ロッカースイッチ×1
	LCD 電源	プッシュボタン×1
	LCD 調節	プッシュボタン×4
ファームウェアアップグレードポート		RJ-11×1
USB1.1 ポート		USB タイプ A メス×1
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1

(表は次のページに続きます)

機能		CL5800
LED	電源	ダークグリーン×1
	LCD 電源	オレンジ×1
	Num Lock	グリーン×1
	Caps Lock	グリーン×1
	Scroll Lock	グリーン×1
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2、USB
電源仕様		AC100V～240V、50Hz/60Hz
消費電力		27.4W
VGA 解像度		最大 1,280×1,024@75Hz、DDC2B 準拠
動作環境	動作温度	0～50℃
	保管温度	-20～60℃
	湿度	0～80%RH、結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		14.8kg
サイズ(W×D×H)		480×680×44mm
同梱品		2L-5302UP(1.8m)ケーブル×1 電源ケーブル×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 クイックスタートガイド×1 イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング)×1

(表は次のページに続きます)

機能	CL5800
対応 KVM ケーブル	《PS/2KVM ケーブル》
	2L-5201P(1.2m)
	2L-5202P(1.8m)
	2L-5702P(1.8m)
	2L-5203P(3m)
	2L-5206P(6m)
	2L-5210P(10m)
	《USBKVM ケーブル》
	2L-5201U(1.2m)
	2L-5202U(1.8m)
	2L-5203U(3m)
	2L-5205U(5m)
	《PS/2・USBKVM ケーブル》
2L-5301UP(1.2m)	
2L-5302UP(1.8m)	
2L-5303UP(3m)	
*注意:標準で PS/2・USB ケーブル (2L-5302UP)×1 が付属しています。	

イージーセットアップラックマウントキット

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

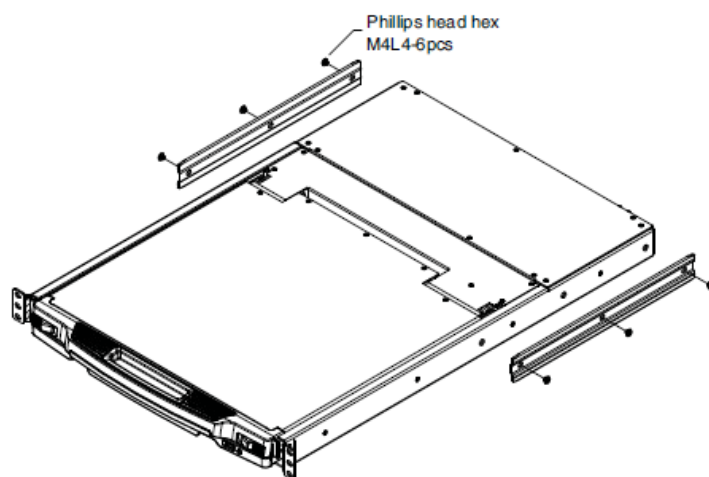
KVM 型番	レールキット	対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)
CL5800NJJS	イージーセットアップ ラックマウントキット/ショート	42cm～70cm
CL5800NJL	イージーセットアップ ラックマウントキット/ロング	68cm～105cm

注意: ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

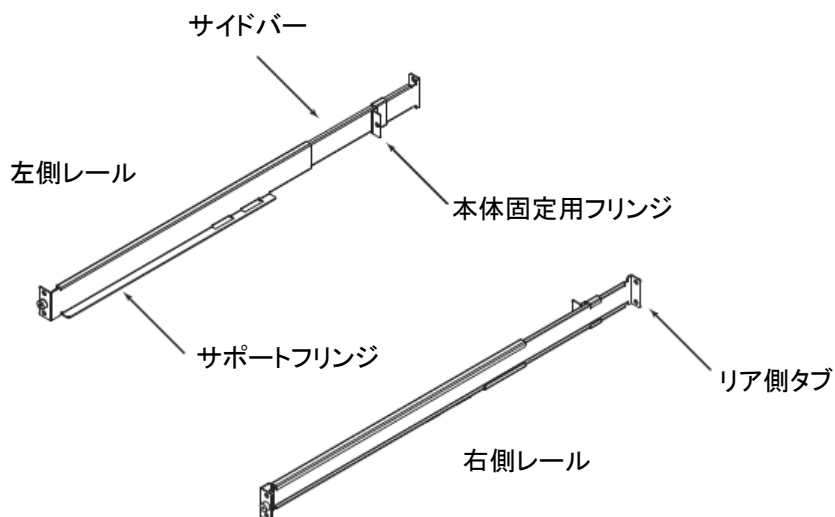
ロングレールキットの標準ラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、マニュアルの内容に沿って CL5800 を取り付けるだけです。詳細については p.19 の「標準ラックマウントキット」をご参照ください。

イージーセットアップラックマウントキットを使用する際のマウント作業は下記の手順に従ってください(ショート/ロング共通)。

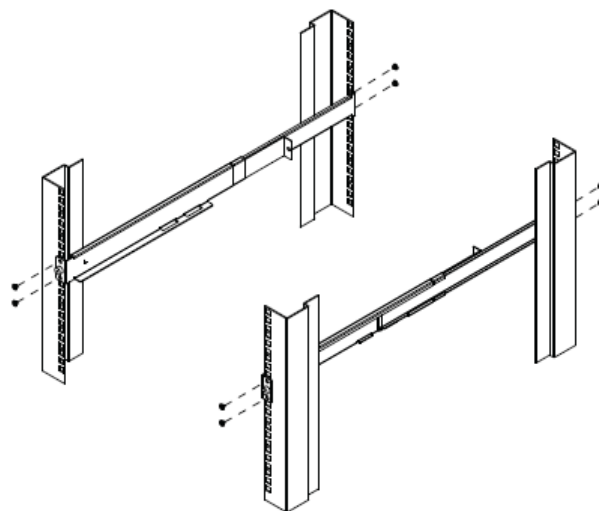
1. CL5800 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されています。イー
ジーセットアップラックマウントキットを使用する前に、本体側 標準レールを取り外してください。
外したネジとレールは標準レールキットを使用する際に必要になるので、保管しておいてくだ
さい。



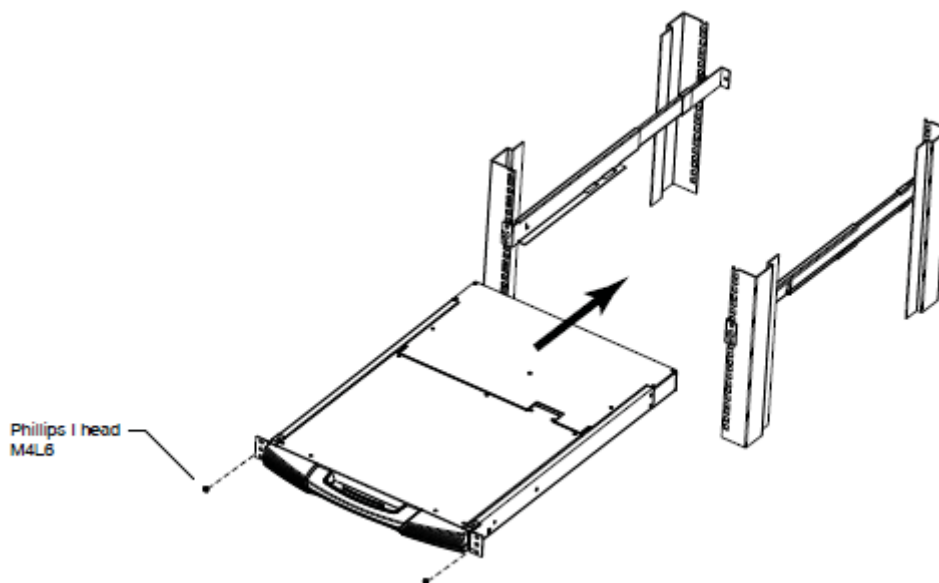
2. 同梱品箱に収められているイージーセットアップラックマウントキットを取り出し、レールの左右
前後を確認してください。



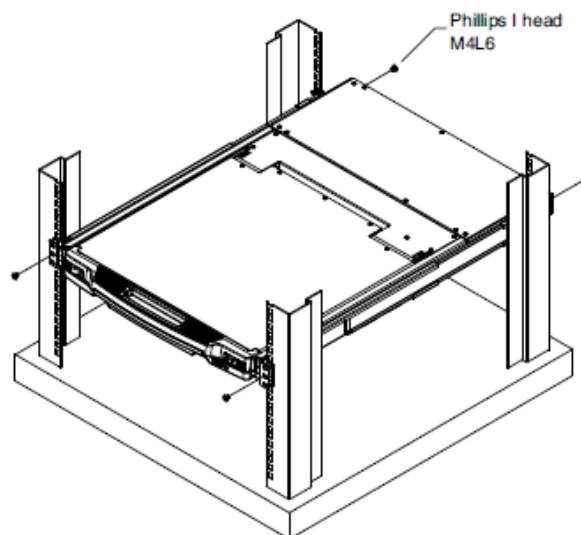
- a) イージーセットアップラックマウントキットは、レールのみを先にラックへ取り付けます。はじめにフロント側タブをラックにネジ止めしてください。
- b) サイドバーを調整しラックの支柱に合わせ、リア側タブをラックにネジ止めしてください。



3. サポートフリンジに支えられるようにしながら、CL5800 をラックのフロント側からスライドさせていきます。フロントタブが重なる位置まで押し入れたら、ネジ止めしてください。(ネジの本締めは次の手順で行ってください)



4. 本体固定用フリンジをスライドさせ、タブが製品リアパネルに接触するように調整し、ネジ止めしてください。取付位置に問題がなければ、4ヶ所のネジを本締めしてください。



5. LCD パネル/キーボードパネルを引き出してみ、問題なく操作できることを確認してください。
(操作手順についてはp.22を参照)
6. 最後にすべてのネジがしっかりと止められていることを再確認してください。

SPHD コネクターについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクターを使用しております。コネクターの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。

Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで入力することによって、PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

トラブルシューティング

現象	対処法
セカンドコンソールに接続したモニターにゴーストが発生する。	外付モニターと CL5800 間の距離が離れすぎている可能性があります。使用する VGA ケーブルの最大長を 20m (もしくはそれ以下) にする必要があります。短めの VGA ケーブルに交換してみてください。
キーボードから入力した文字が正しく表示されない。	ポートに対するキーボードレイアウトの設定が実際に使用しているキーボードに一致していないことに起因します。使用キーボードのレイアウトに一致するように、お使いの KVM スイッチにおけるポートのキーボードレイアウト設定を変更してください。
セカンドコンソールに接続された Sun キーボードの特殊キーを使って Sun コンピューターの操作ができない。	Sun キーボードのエミュレーションキー (p.46 参照) を使って Sun キーボードの機能をエミュレートしてください。